

豊かな情操の育成を目指した授業実践 ー協働的な学びを通してー

学籍番号 249346

氏 名 西口優香

主指導教員 浦田恵子

副指導教員 藤本佳子

1. 問題の所在と研究の目的

高等学校の学習指導要領(平成30年告示)において、「豊かな情操」を育成する授業の実施が求められている。しかしながら、学校実習などを通して、学校現場において、「豊かな情操」を育成することが難しい現状にあることがうかがえる。

豊かな情操を考える上で、音楽作品自体の解釈もさりながら、創意工夫して、自分なりに表現を考えることや、他者と演奏することなどを体験することで、他者と心を通わせることにつながるのではないかと考える。さらに、これらを経験することにより、人生が豊かになり、他者を理解することができる豊かな心を育成することができるのではないかという仮説を立てた。音楽科授業において、協働的な学びを取り入れることで、「豊かな情操」を育成することにつながるのではないかと考える。そのため、本研究では、協働的な学びであるグループワークを授業に取り入れた授業の実践を行い、その効果について検討することとした。

しかし、実習校の現状として、音楽科及び他教科において、グループワークがほとんど行われておらず、生徒にとって、グループワークに取り組むこと自体が難しい状況にあった。また、指導者においても、グループワークの指導に十分に慣れていないという課題が見られた。

このような状況を踏まえ、1年生で行った授業実践の結果をもとに授業改善を行い、再度、2年生で授業を実施した。そして、授業改善前後での比較・分析を行うこととした。さらに、各クラスの授業終了時に実施したアンケート結果の分析を行い、グループワークの効果について検討することとする。

以上のことから、本研究では、授業改善の過程とアンケート結果の分析という2つの視点から考察を行い、音楽科授業におけるグループワークの効果を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

2.1 授業実践の内容

高等学校学習指導要領音楽編(平成30年告示)において、創意工夫を生かした音楽表現について記載されている。本研究では、合唱曲「ふるさと」(作詞:小山薫堂・作曲:youth case)を教材として用い、指導内容を「音の重なり」とした。グループワークの目的は、楽曲中の2カ所における音の重なり方を理解し、その音の重なりからイメージされる音楽表現について、生徒が自分なりに考えることである。

各学年の授業実践では、ワークシートの内容に沿って、まず個人活動として音の重なりについて自分の意見を整理した。その後、グループワークを行い、個人活動で考えた意見を共有し、クラス全体で共有を行った。

2.2 分析方法

3クラスの授業実践をもとに、大きく2つの観点から検討を行った。1つ目は、グループワークを効果的に行うための授業分析及び改善、2つ目は、アンケートによる分析である。さらに、この2つの観点がどのように作用しているのかということについて検討を深める。

3. 指導方法の分析と改善

1年生の授業実践を踏まえ、授業改善をした後、2年生の授業実践を実施した。主に、グループワークにおいて指示が生徒に伝わりやすくなるよう、ワークシート及びホワイトボードの改善を行った。ここから、グループワークを成立させるためには、指示の出し方を工夫するとともに、ワークシートやホワイトボードの形式を活動内容に即したものに整えることが重要であり、これらの改善はグループワークの円滑な進行や理解を深めることに効果をもたらすと考えられる。

4. アンケートによる分析

このアンケートの目的は、グループワークを行うことによって、どのような効果があるのかを明らかにすることである。しかし、アンケート結果はクラスによって大きな差異がみられた。これは授業実践そのものの問題と関係していると考えられ、このアンケート結果のみでグループワークの効果を明らかにすることはできなかった。そのため、授業分析・改善の内容と照らし合わせながら考察を行った。

以上より、協働的な学習を音楽科の表現活動に効果的に位置付けるためにはグループ活動の活動を行うための環境の整備、指導者による指示の出し方の工夫が重要であると考えられる。

5. まとめ

本研究の目的は、音楽科授業の歌唱分野において、グループワークを取り入れることで、音楽表現にどのような影響があるのかを明らかにすることであった。

授業実践を行った上で、指導の分析、改善を行うとともに、アンケートによる分析を行った。その結果、協働的な学習として、グループワークを効果的に行うためには、活動の目的や進め方を明確にし、指導者が具体的な指示を出すことが重要であると言える。

今回の研究では、アンケート結果に大きな差異が見られるなど、分析を進めるための十分な環境を整えることができなかった。

今後の課題として、音楽科授業において、協働的な学習を取り入れた授業実践をするための指導者の手立てについてさらに検討を深めていきたい。